

学校名	大分県立大分南高等学校
-----	-------------

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

九州から届け!!「福祉^{しあわせ}」南風プログラム開発

～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～

2. 研究の目的

現在我が国では、総人口が減少する中、急激な高齢化とともに、多様化・高度化する介護サービスの提供の必要性と、介護福祉人材不足等を防ぐための人材の確保・養成に関する課題を抱えている。

そこで本研究では、将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーとなることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発を通して、社会福祉の発展を担う職業人を育成し、『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として福祉力を発信していく。

そして、本研究に基づいた福祉教育の指導の工夫・改善の継続と、小中学生や地域等への福祉の魅力発信の継続が、介護福祉人材の質の向上と量の確保につながる「『福祉（しあわせ）』の好循環」を創出し、持続可能な福祉社会の構築を目指すことを目的とする。

3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

【研究の重点項目】

介護についての先進的な専門性に関する基礎的・基本的な知識、技能を習得するための教育内容・指導方法等の研究を行う。また、介護現場で様々な人と関わり、多様性を受容する基礎力を習得するための教育内容・指導方法等の研究を行う。

(1) 先進プロジェクト

研究のねらい

被災地の視察、講義、介護実習等を通して災害時における福祉支援力、介護ロボットを活用した有用性の検証、認知症ケアメソッドの研究、外国人支援の「Welfare English」など幅広い知識と、基本的な技能を身に付けさせ、先進的な専門性を高める。

研究内容・方法

研究内容	目標、具体的内容
<p>1-① 災害時の福祉支援力 体験学習</p>	<p>〈目標〉 近年、災害に見舞われた後の福祉的支援が必要な人々の存在が顕在化している。災害時の現状を被災地訪問から学ぶことで、介護福祉士に求められる役割を知る。</p> <p>〈具体的内容〉 ○災害時における福祉支援について、講義、視察等から学ぶことで、介護福祉士に求められる役割を知る。 【教育課程上の位置付け】介護福祉基礎 【協力機関】防災士協会、日本赤十字社、大分県生活環境部 大分県福祉保健部、社会福祉協議会 【実施場所】熊本県阿蘇地区、大分県日田地区</p> <p>〈効果測定〉 ○災害時における福祉支援に関する講義・視察を通じた理解の深まり（レポート） ○ポートフォリオ評価（4段階評価、平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>1-② 介護ロボット等の 有用性研究</p>	<p>〈目標〉 介護ロボットや福祉用具には、移乗型、コミュニケーション支援型等の機能があり、利用者の自立支援、介護者の負担軽減等の役割が期待されている。その機能や役割等を講義、体験研修、介護実習での実践をとおして学び、介護ロボット等を活用した介護技術力を向上させ、その有用性についての研究を深める。</p> <p>〈具体的内容〉 ○介護ロボットや福祉用具等についての講義や、ロボットメーカー、先進施設等の視察等から、その現状と意義について理解する。 ○コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性を検証する。 【教育課程上の位置づけ】生活支援技術、介護実習 【協力期間】大分県社会福祉介護研修センター、ロボットメーカー、介護実習施設 【実施場所】大分県社会福祉介護研修センター、大分大学、介護実習施設等 【設備・機器】コミュニケーションロボット10台</p> <p>〈効果測定〉 ○介護ロボットの意義と現状に関する講義・視察を通じた理解の深まり（レポート） ○介護実習施設での実践力・活用力（レポート） ○コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」の習得状況（レポート） ○「資質・能力」測定（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「福祉理解度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

<p>1—③ 認知症ケアメソッドの研究</p>	<p>〈目標〉 認知症の様々な症状は、介護者の適切な対応によって軽減できる。先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を身に付け、適切な認知症介護に活用できる力を身に付けることで、介護技術力を向上させる。</p> <p>〈具体的内容〉 ○「認知症の人が安心して外出できるまちづくりを」についての講義、視察等から認知症介護の理解を深め、介護実習や認知症サポーター養成講座などで、介護支援技術の実践力を向上させる。</p> <p>【教育課程上の位置付け】生活支援技術 【実施場所】介護福祉施設等</p> <p>〈効果測定〉 ○認知症介護の技法の習得状況や介護支援での活用状況（レポート・介護技術の成果発表） ○介護技術コンテスト九州大会・全国大会出場 ○「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>1—⑤ 外国人支援の「Welfare English」</p>	<p>〈目標〉 大分県は立命館アジア太平洋大学などがあり多くの外国人留学生在が居住している。また、県内の観光地には、外国人観光客も多く訪れる。彼らは近年の大きな災害に遭遇し、言葉の通じない中で不安な日々を過ごしている。また、大分国際車いすマラソン大会は世界的にも有名な大会で、多くの外国人選手が大分県に集まる。このような外国人への福祉的な支援ができるよう「Welfare English」を「コミュニケーション英語」の授業で習得し、実践的な英語力を身に付ける。</p> <p>〈具体的内容〉 ○「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。</p> <p>【教育課程上の位置付け】コミュニケーション英語Ⅰ</p> <p>〈効果測定〉 ○コミュニケーション英語の授業教材として介護技術に関する教材を用いることによる、実用的な英語力の向上（レポート、成果発表）</p>

(2) マインド育成プロジェクト

研究のねらい

セミナーや研修を通して職場や地域で求められるリーダーとしての資質・能力、認知症の理解力を高めることで、多様性を受容できる力、人間関係を調整できる力を身に付けさせ、豊かな人間性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標、具体的内容
<p>3—① サーバントリーダーシップ育成セミナー</p>	<p>〈目標〉 福祉現場は、チームワーク、ネットワークが重要である。強いリーダーシップではなく、他者を思いやり、人間関係調整力のある支持的リーダーを必要とする。これから求められる新しいリーダーのあり方（サーバントリーダーシップ）</p>

	<p>プ)等を学び、実践できる力を養う。</p> <p>〈具体的内容〉 ○サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 【教育課程上の位置付け】介護総合演習・コミュニケーション技術 【協力機関】大分県社会福祉介護研修センター、介護労働安定センター 〈効果測定〉 ○社会福祉リーダーとしての資質を身に付けるためのサーバントリーダーシップ等の講義・演習等の受講を通じた理解の深まり。(レポート) ○「求められる介護福祉士像」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「資質・能力」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「福祉理解度」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「南風プログラム到達度」測定(4段階評価 平均評価3.0以上)</p>
<p>3-③ 認知症キャラバン・ メイト養成研究</p>	<p>〈目標〉 高齢化の進展に伴う認知症高齢者の増加は、大きな社会問題となっている。専門職や専門施設のみでこの問題に取り組むことは難しく、認知症の理解者を増やすことが必要である。そこで、生徒自らが認知症に関する確かな知識・技術を身に付けることを目指す。</p> <p>〈具体的内容〉 ○認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。 【教育課程上の位置付け】社会福祉基礎 【協力機関】竹中判田地域包括支援センター 〈効果測定〉 ○認知症サポーター養成講座の受講による認知症への理解の深まり(レポート) ○「求められる介護福祉士像」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「資質・能力」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「福祉理解度」測定(4段階評価 平均評価3.0以上) ○「南風プログラム到達度」測定(4段階評価 平均評価3.0以上)</p>

(3) 発信力プロジェクト

研究のねらい

「先進プロジェクト」、「マインド育成プロジェクト」で身に付けた力を、「発信力プロジェクト」で『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として生徒が「南高生地域福祉講座」を企画運営し、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標、具体的内容
<p>4-① 地域福祉講座Ⅰ 「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座Ⅰ」の企画・運営</p>	<p>〈目標〉 南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座Ⅰ」の実施をとおして企画力・運営力・伝える力を身に付けることを目指す。</p> <p>〈具体的内容〉 ○ネットワーク協議会にて介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。</p>

	<p>【教育課程上の位置付け】生活支援技術</p> <p>【協力機関】介護実習施設職員</p> <p>〈効果測定〉</p> <p>○南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボットを活用・介護技術講座Ⅰ」の実施を通じた企画力・運営力・伝える力（企画書・レポート）</p> <p>○地域福祉講座Ⅰ参加者へのアンケートの実施（４段階評価 平均評価 3.0 以上）</p> <p>○福祉施設職員の参加者数：20人</p> <p>○「求められる介護福祉士像」測定（４段階評価 平均評価 3.0 以上）</p> <p>○「資質・能力」測定（４段階評価 平均評価 3.0 以上）</p> <p>○「福祉理解度」測定（４段階評価 平均評価 3.0 以上）</p> <p>○「南風プログラム到達度」測定（４段階評価 平均評価 3.0 以上）</p>
--	--

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	担当教科・役割分担(◎責任者) ※表1 研究内容番号
南 富美子	教諭	福祉科 ・全研究項目の把握・確認 ◎1-①、1-④、2-②、3-③、4-①
大井手 久美	教諭	福祉科 ・研究実務・全研究項目の把握・確認 ◎1-③、◎2-②、◎1-④、◎4-①、◎4-② 1-①、1-②、3-①
戸次 連実	教諭	福祉科 ◎4-③、◎4-④、1-②、1-③、2-③
児玉 美紀子	教諭	福祉科 ◎3-①、1-⑤、2-①、3-②、4-③
達家 めぐみ	教諭	福祉科 ◎1-②、◎2-①、1-③、3-③、4-④
福嶋 悠乃	教諭	福祉科 ◎2-③、◎3-③、1-②、1-③、3-①
道脇 法子	臨時講師	福祉科 ◎3-②、1-②、2-①
吉田 純子	臨時講師	福祉科 ・1-⑤、3-①、3-③
堀田 琴絵	臨時講師	福祉科 ・1-①、2-②、3-①
廣瀬 富士夫	教諭	英語科 ◎1-⑤

【表1 研究内容番号】

1 先進プロジェクト	2 連携プロジェクト	3 マインド育成プロジェクト	4 発信力プロジェクト
①災害時の福祉支援力体験学習 ②介護ロボット等の有用性研究 ③認知症ケアメソッドの研究 ④福祉先進国視察研修 ⑤外国人支援の「Welfare English」習得学習	①大学との多職種協働学習 ②介護福祉施設等との地域の福祉課題解決学習 ③福祉系高校との地域福祉活性化交流学習	①サーバントリーダーシップ育成セミナー ②死生観・倫理観育成セミナー ③認知症キャラバン・メイト養成研修	①南高生地域福祉講座の実施 ②「おおいたの福祉力」の提言 ③「福祉教育フェスティバル」開催 ④メディア等を活用した南風プログラム発信

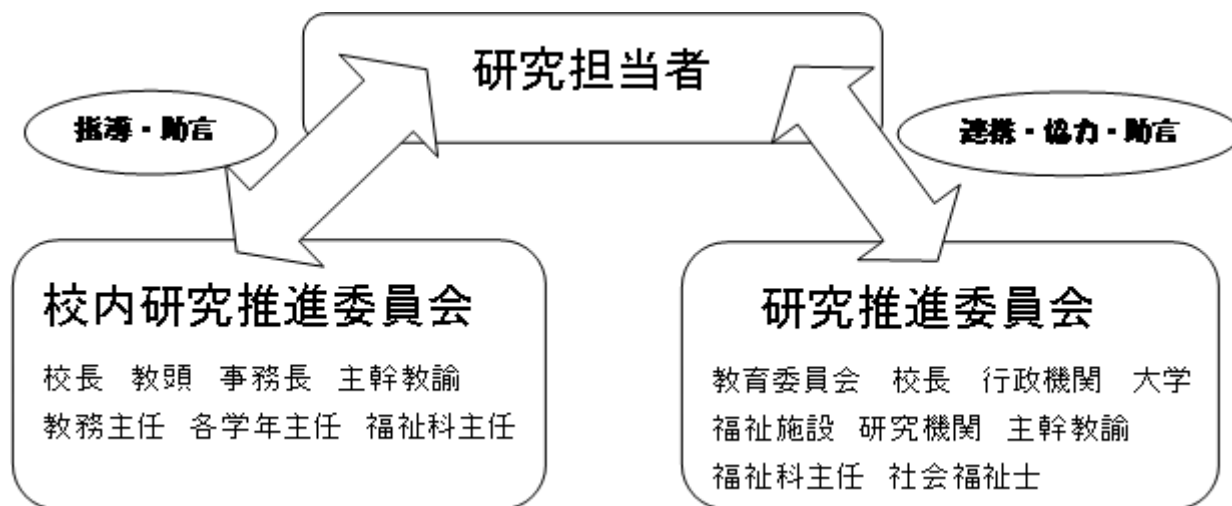
(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
鹿嶋 隆志	大分共同社会福祉士事務所・社会福祉士	・取組の全般 ・社会福祉 ・ソーシャルワーク
廣野 俊輔	大分大学 福祉健康科学部・講師	・取組の全般 ・社会福祉 ・福祉健康科学部との多職種協働学習
黒木 邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	・取組の全般 ・災害時の福祉支援力
衛藤 規久子	社会福祉法人 龍和会・理事 (大分南高校ネットワーク協議会会長)	・取組の全般 ・地域の福祉課題解決学習
福山 慧	大分県社会福祉介護研修センター 介護研修・総合相談部 兼 県介護ロボット普及推進班・主任	・介護ロボット等の研究
渡邊 康弘	大分県福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班・主幹	・認知症キャラバン・メイト養成
徳地 喜和子	大分県教育庁高校教育課・ 指導主事兼主幹	・取組の全般
糸永 正弘	大分県立大分南高等学校・校長	・取組の全般
小幡 英二	大分県立大分南高等学校・教頭	・取組の全般
高橋 博文	大分県立大分南高等学校・主幹教諭	・取組の全般
南 富美子	大分県立大分南高等学校・福祉科主任	・取組の全般
大井手 久美	大分県立大分南高等学校・SPH担当	・取組の全般

(3) 運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
衣笠 一茂	大分大学 福祉健康科学部・学部長	研究全体の評価 学識経験者・社会福祉・ ソーシャルワーク
三浦 晃史	大分県介護福祉士会・会長	研究全体の評価 社会福祉・介護福祉
大塚 悦子	社会福祉法人 みずほ厚生センター 四季の郷・施設長	研究全体の評価 介護福祉施設経営
衛藤 龍	医療法人社団親和会 衛藤病院・院長	研究全体の評価 地域医療・地域福祉
猪俣 知三	(株)大分放送・常務取締役	研究全体の評価 地域福祉・情報通信
鷲司 匡亮	(株)大銀経済経営研究所・調査企画部長	研究全体の評価 地域福祉・経済経営
伊東 雅人	大分県福祉保健部高齢者福祉課・課長	研究全体の評価 福祉行政
檜崎 信浩	大分県教育庁高校教育課・課長	学校教育

(4) 校内における体制図



6. 研究実施時期

活動時期	活動の内容
5月	生徒への事業の説明会実施 連携協力機関との事業の詳細についての打ち合わせ、講師派遣依頼 「コミュニケーション英語」の授業での「Welfare English」の習得 〈福祉科1年〉～3月 保護者への事業の説明 災害時における福祉支援について学ぶ（講義）〈福祉科1年〉
6月	災害時における福祉支援について学ぶ（現地視察Ⅰ）〈福祉科1年〉
7月	
8月	災害時における福祉支援について学ぶ（現地視察Ⅱ）〈福祉科1年〉 ユマニチュードの哲学の研修受講（教員）
9月	ユマニチュードの考え方技術を学ぶ（福祉科1年）～11月 介護ロボットの意義と現状について学ぶ（講義）〈福祉科1年〉 大分県社会福祉介護研修センターにおける介護ロボットの研究視察 〈福祉科1年〉
10月	認知症サポーター養成講座の受講〈福祉科1年〉
11月	コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」習得を 介護実習施設で実践〈福祉科1年〉 大分国際車いすマラソン大会でのボランティア活動〈福祉科1～3年〉
12月	
1月	社会福祉リーダーとしての資質を身に付けるためのサーバントリーダーシップ等の講 義、演習〈福祉科1年〉
2月	南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」の企画運営 〈福祉科1年〉
3月	文部科学省へ事業完了報告書等を提出

※ 実施の時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
※特になし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 (無)

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

Ⅱ 委託事業経費
別紙 1 に記載

Ⅲ 事業連絡窓口等
別紙 2 に記載